

歴史を学び歴史に学び現代を見る！

あの光源氏のモデルが糖尿病だった！



右に示した切手は、1994年（平成6年）に日本で開催された国際糖尿病会議を記念して発行された記念切手です。近年はハガキや封書を出さなくなったので、気が付かれなかったかもしれませんが、図柄がとても珍しいので入手しておきました。上部に描かれている人物は、あの源氏物語の主人公の光源氏のモデルの一人と言われている藤原道長です！『この世をば 我が世とぞ思ふ 望月の 欠けたることも なしと思へば』と権勢を誇った和歌を詠んでいます。娘3人がそれぞれ天皇の後とし、さらに孫が天皇となって摂関政治の頂点に極めた人物です。ところが、毎晩のような贅沢な飲食、運動不足、そして強度のストレスと。彼が記した日記や側近の日記から、歴史上の人物で記録に残る「糖尿病患者第一号！」と言われている。それで、糖尿病会議開催を記念する切手の図柄に選ばれたようです。（因みに図柄の下の方角形のものは何でしょうか、お分かりになりますか？）

調べてみると、実に多くの歴史上の人物が糖尿病に罹っていました！最高権力者や武将、明治時代の文豪や作詞家、海外でも画家や作曲家や発明家など、お馴染みの方々が。「糖尿病友の会」をつくったと思うほどです。近年ますます糖尿病患者が増えています。有効な対策も考えましょう！

記

日 時 令和8年11月1日（日）「古典の日」午後1時30分～4時30分

会 場 ユニコムプラザ・セミナールーム2（ポーノ相模大野3階）

講 師 山田 真也（歴史探究家 相模原市民短歌会々長）

申 込 事前申込制 先着60名 聴講料500円（当日受付で）

申込先 電話 090-4709-5585【山田】
メール letsgo_yamachan@docomo.ne.jp

主 催 市民企画さがみはら

共 催 相武歴史研究会

共 催 相模原市民短歌会



勝坂式土器発掘100年！

相模原市の『勝坂』地名は全国区！

今から丁度100年前の1926年（大正15年）10月3日、大山 柏氏が現相模原市内の磯部の勝坂で発掘した土器及び土器片が、縄文時代中期を代表する示準土器と評価されて『勝坂式土器』と称されることとなった！即ち、極端な言い方をすれば、5000年前の縄文中期に発掘された土器については、関東地方や中部地方で発掘されようが、『勝坂式土器』と分類されることとなった！まさに『勝坂』は全国区の名称となっている。

この大山柏氏はNHKの朝ドラ「風、薫る」に登場した“鹿鳴館の華”とも称された大山捨松の子息であり、父は元帥・初代陸軍大臣の大山巖である！父親の跡を継いで軍人・貴族院議員・公爵として活躍されたが、彼の本分は縄文土器などの考古学研究にあった。ドイツ留学でみっちり仕込んだ知見や発掘仕法を駆使して日本の縄文研究の泰斗となった。敷地内に私財を投じて大山史前学（考古学）研究所を作り後進の指導にも貢献した。

この史前学研究所は昭和20年の米軍による東京大空襲で焼失したとされていたが、つい最近の新聞報道によると一部の貴重な土器などが別途保存されていた！と言う。勝坂式土器の発掘から再発見に至る経緯を辿ってみたい。

また、東京渋谷区神宮前の旧大山邸（現在はマンションに）に立てられた説明看板に「勝坂遺跡」の文字を見た時は相模原市民としては感動ものであった！後日希望者を募って当地を訪れてみたい。21日に相談して決める予定。

記

日時 令和8年11月21日（土） 午後1時30分～4時30分

会場 ユニコムプラザ・セミナールーム2（ポーノ相模大野3階）

講師 山田 真也（郷土史研究家）

申込 事前申込制 先着60名 聴講料500円（当日受付で）

申込先 電話 090-4709-5585【山田】

メール letsgo_yamachan@docomo.ne.jp

主催 市民企画さがみはら

共催 相武歴史研究会